

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成27年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム

「コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造」

研究開発プロジェクト

「災害マネジメントに活かす島しょのコミュニティレジ
リエンスの知の創出」

岡村 純

(日本赤十字九州国際看護大学、教授)

目次

| | |
|---|-----------|
| 1. 研究開発プロジェクト名 | 2 |
| 2. 研究開発実施の要約 | 2 |
| 2 - 1. 研究開発目標..... | 2 |
| 2 - 2. 実施項目・内容..... | 2 |
| 2 - 3. 主な結果..... | 2 |
| 3. 研究開発実施の具体的内容 | 4 |
| 3 - 1. 研究開発目標..... | 4 |
| 3 - 2. 実施方法・実施内容..... | 4 |
| 3 - 3. 研究開発結果・成果..... | 4 |
| 3 - 4. 会議等の活動..... | 5 |
| 4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 | 5 |
| 5. 研究開発実施体制 | 6 |
| 6. 研究開発実施者 | 9 |
| 7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など | 10 |
| 7 - 1. ワークショップ等..... | 10 |
| 7 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など..... | 10 |
| 7 - 3. 論文発表..... | 10 |
| 7 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）..... | 10 |
| 7 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等..... | 10 |
| 7 - 6. 特許出願..... | 10 |

1. 研究開発プロジェクト名

「災害マネジメントに活かす島しょのコミュニティレジリエンスの知の創出」

2. 研究開発実施の要約

福岡県西方沖地震で被災した玄界島の復興経験を多角的に分析し、被災前と今日の比較を通じて新しい形の島の生活の安定がどのように成し遂げられるのかを探索するとともに、被災経験がなく自然・社会・経済的環境が類似した他の島しょの状況と比較することによって、他地域での災害マネジメントに活かすことのできるコミュニティレジリエンスの形式知を創出する。

本プロジェクトでは、コミュニティレジリエンスの形式知を、以下のように暫定的に定義する。「コミュニティの知」とは、地形を含む自然環境、それに立脚する歴史、生活、文化の中からコミュニティで生き抜くために住民自らが築き上げ共通認識されている暗黙の規律、暗黙知である。この暗黙知は、災害や戦争など未曾有の事態に揺らぎながらも、住民が協力し対応しながらコミュニティを回復・再生させいく過程でしなやかに変化し、経験として曖昧模糊な形で存在する。この知を、住民が意識的に他のコミュニティの経験を学び、話し合うことによって、社会的ルールとして言語化したものをコミュニティレジリエンスの形式知と定義する。

本プロジェクトでは、平時から人口減少の課題を抱えつつ、災害発生後の選択肢として全島避難のように従前の地域住民が一斉に避難し得る、他地域と物理的に隔たりのある比較的コンパクトな地域を対象としている。そのような地域において、災害発生後に単に旧に復するのではなく、新たなコミュニティとして復興していく上での課題と対応策を整理することで、今後起こりうる災害への準備、安全・安心なコミュニティづくりに貢献することを目標としている。

2 - 1. 研究開発目標

- ・玄界島におけるコミュニティレジリエンスの形式知を抽出する
- ・地島におけるコミュニティレジリエンスの形式知を創出する
- ・玄界島、地島に共通するコミュニティレジリエンスの形式知を創出する

2 - 2. 実施項目・内容

- ・玄界島漁協役員ヒヤリング
- ・玄界島小学校教員ヒヤリング
- ・玄界島青年男子ヒヤリング
- ・玄界島壮年男女ヒヤリング

2 - 3. 主な結果

平成26年度は玄界島のコミュニティレジリエンスの形式知について、次のような仮説を立てた。

- ・全島避難・帰島の歴史的伝説・史実と経済的困窮時における自主的統制という経験の共有によって、島民に強いコミュニティ・アイデンティティが形成されていた

- ・住宅再建・全戸帰島までは、漁協リーダーを中心とするリーダーシップが機能していた。
- ・各年齢階層における消防・防災活動によって防災力が重層的に形成されていた。そして、平成27年度はそれらを検証するために、玄界島の復興経験を小中学生・青年・女性や家族、学校関係者、新規就漁者などの視点から多角的に分析した。

その概要を以下に示す。

①震災後、全住民が島で生活するという共通の関心・行動のもとに、新しいコミュニティを（復元ではなく）創造した。しかしながら、新しいコミュニティにおける規律と行動が共有化されていないために、地域生活再建や漁業振興が進んでいないことが考えられる。

②被災前のコミュニティレジリエンスの暗黙知は、

ア) 漁協という近代的な組織による漁業の運営・リーダーシップと救難訓練の蓄積

イ) 島特有の居住環境による濃厚な近隣関係と相互扶助

ウ) 女性組織による島内の安全維持

エ) 小中学生の少年消防団活動によって培われた防災力

オ) 全島避難・帰島の歴史的伝説と経済的困窮時における自主的統制という経験の共有

によって、コミュニティと家族に蓄積され、島民のコミュニティアイデンティティが確立できていた。

③被災後、復興の過程において機能したコミュニティレジリエンスの形式知は、公的報告書における公式見解として定着したために、コミュニティと家族に蓄積された暗黙知を十分に言語化できていない。

④被災後、復興の過程におけるコミュニティレジリエンスの形式知は、

ア) 漁協の強力なリーダーシップは迅速な全島避難と3年での全員帰島を成功させたが、漁協の内部問題でリーダーシップ構造が崩壊し、しまづくり推進協議会の解散とも相まってコミュニティのリーダーシップを喪失している。漁協のリーダーに復興対策検討委員会のメンバーが新しく就いたことによってリーダーシップがどう変化し、しまづくり・漁業振興がどう進むのかについては明らかにできていない。

イ) 島特有の居住環境による濃厚な近隣関係と相互扶助は人的被害の少なさの要因となったが、緊急性と公平性を最優先した住居移転は近隣関係のネットワーク化・希薄化を促進している

ウ) 女性組織による島内の安全維持は継続されているが、組織における若手・中堅層と高齢者層の対立・矛盾が活動を低下させる可能性が生じている

エ) 小中学生の少年消防団活動は防災キャンプや被災経験の聞き取りなどの新しい取り組みによって防災力を高めており、家族、コミュニティのレジリエンスを強化する可能性が大きい

オ) 全島避難・帰島の成功体験はコミュニティアイデンティティを高めているが、帰島せずに島外から島を支えている少数者のコミュニティアイデンティティについては明らかにできていない

カ) コミュニティアイデンティティを高めるために必要な漁業振興は若手・中堅層による新しい試みが漁協や高齢者層からの抵抗・反発を招いており、島の活性化は停滞している

以上のように、コミュニティレジリエンスの形式知は全島民で共有されているわけではないので、小中学生の活動を除いては、島のコミュニティレジリエンスは帰島時までと較べると低下している。

3. 研究開発実施の具体的内容

3 - 1. 研究開発目標

- ・ 玄界島におけるコミュニティレジリエンスの形式知を抽出する
- ・ 地島におけるコミュニティレジリエンスの形式知を創出する
- ・ 玄界島、地島に共通するコミュニティレジリエンスの形式知を創出する

3 - 2. 実施方法・実施内容

- ・ 玄界島漁協役員ヒヤリング
- ・ 玄界島小学校教員ヒヤリング
- ・ 玄界島青年男子ヒヤリング
- ・ 玄界島壮年男女ヒヤリング

3 - 3. 研究開発結果・成果

今回、玄界島における調査結果として、①震災後、全住民が島で生活するという共通の関心・行動のもとに、新しいコミュニティを創造した、②被災前のコミュニティレジリエンスの暗黙知は、A)漁協のリーダーシップと救難訓練の蓄積、B)島特有の濃厚な近隣関係と相互扶助、C)女性による島内の安全維持、D)少年少女消防団活動による防災力、E)全島避難・帰島と島内経済の自主的統制という経験の共有、によってコミュニティと家族に蓄積され、島民のコミュニティアイデンティティが確立できていた、③住宅再建・全戸帰島において機能したコミュニティレジリエンスの形式知が公的報告書として定式化されたことで、コミュニティと家族に蓄積されてきた暗黙知を十分に言語化できていない部分がある、④住宅再建・全戸帰島後の漁村振興過程においては、コミュニティレジリエンスの形式知は、A)漁協のリーダーシップ構造の崩壊、B)住居移転による近隣関係のネットワーク化・希薄化の促進、C)女性組織による島内の安全維持と若手・中堅層と高齢者層の対立、D)小中学生の防災力向上、E)全島避難・帰島の成功体験によるコミュニティアイデンティティの昂揚、F)産業振興における若手・中堅層と高齢者層の対立、によって全島民で共有されていないことが明らかとなった。

3 - 4. 会議等の活動

| 年月日 | 名称 | 場所 | 概要 |
|------------------------|---------------------|---------------|---|
| 平成27年 6月8日 | 領域会議 | 日本赤十字九州国際看護大学 | 平成27年度計画書および計画の実施について |
| 平成27年 8月17日 | 領域会議 | 日本赤十字九州国際看護大学 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月7日JSTでの研究成果発表会の報告とアドバイザーからのコメントの共有 ・ サブグループの調査報告 ・ 玄界島のヒヤリング調査の確認 |
| 平成27年 8月27日・ 28日 | 領域会議 玄界島住民のヒヤリング | 玄界島 宿泊施設 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民からの聞き取り ・ ヒヤリングデータの共有 ・ 玄界島小中学校の訪問と防災教育についての聞き取り |
| 平成27年 10月27日 | 玄界島漁協組合 役員ヒヤリング | 玄界島 漁協組合 | ・ 震災後の復興過程、玄界太鼓についての聞き取り |
| 平成27年 12月13日 | 玄界島住民のヒヤリング | 玄界島 | ・ 住民からの聞き取り |
| 平成28年 2月8日 | 地島 自治会長との打ち合わせ | 地島 | ・ 地島での調査依頼と地区の概要の聞き取り |

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

1. 玄界島における追加調査と分析

①しまづくり推進協議会

全戸帰島後のしまづくり推進協議会の委員選出が選挙ではなく、各団体から2名、2年任期の持回り役員として就任したこと復興委員会とは対照的である。推進協議会が十分な振興成果を上げずに解散したことの原因の一つはここにあると考えるが、今後さらなる調査・検討が必要である。

平常時におけるコミュニティレジリエンスの低下には、「風化」と表現される、緊急時における復興へのモチベーションが帰島することによっていったん下がることも云われており、今後、さらなる調査・検討が必要である。

②防災訓練・防災キャンプに参加している小中学生・家族に対するナラティブインタビュー

帰島後の防災訓練において、訓練のシナリオの原案が小学校で検討されたり、当日の指揮を少年少女クラブの隊長がとるなどの事実は、小中学生の防災力がコミュニティレ

レジリエンスとなることを示しており、この暗黙知を家族、コミュニティで共有するとともに、言語化していくことが課題である。

2. 地島におけるアクションリサーチ

①住民のベースラインデータ調査

住民の健康調査

住民の防災に関する意識・行動調査

②住民とのワークショップ（宗像市島づくり安全課と共同）

玄界島の報告、防災計画の確認・訓練（救急法、避難訓練）等の実施

5. 研究開発実施体制

1. 日本赤十字九州国際看護大学グループ（岡村 純）

日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科

実施項目：研究統括、玄界島地区踏査、島民インタビュー、復興後の生活影響調査および質的探索的分析、
地島における地区踏査、健康調査、ベースラインデータ・事後調査（島民の意識・態度・行動）、ワークショップの実施・運営（玄界島のコミュニティレジリエンスの形式知の検討）

概要：玄界島において上記の調査を実施し、調査結果の質的探索的分析と既存資料の探索分析に基づき、玄界島のコミュニティレジリエンスの暗黙知を抽出する。

地島において上記の調査を実施するとともに、アクションリサーチとしてワークショップを実施し、玄界島のコミュニティレジリエンスの形式知を島民と検討することによって地島のコミュニティレジリエンスの形式知を創出する。

さらに、地島それぞれの形式知を比較検討することによって、島しょにおけるコミュニティレジリエンスの形式知の一般化を試みる。

2. 福岡教育大学グループ（井上豊久）

福岡教育大学大学院福祉社会教育講座

実施項目：地島責任者、玄界島地区踏査、島民インタビュー、既存資料の文献調査および質的探索的分析、
地島における地区踏査、既存資料調査、ワークショップへの参加（歴史・文化・社会的視点からのコミュニティレジリエンスの形式知の検討）

概要：玄界島において上記の調査を実施し、調査結果から玄界島の歴史・文化・社会的特性を分析し、これらの特性がコミュニティレジリエンスの暗黙知とどのように関連しているかを探索する。

地島において上記の調査を実施し、調査結果から地島の歴史・文化・社会的特性を分析するとともに、ワークショップにおいてこれらの特性を反映したコミュニティレジリエンスの形式知を探索する。

3. 佐賀大学グループ（後藤隆太郎）

佐賀大学大学院工学研究科

実施項目：玄界島責任者、玄界島地区踏査、島民インタビュー、復興計画の文献調査および質的探索的分析、
地島における地区踏査、被害想定・復興計画の資料調査、ワークショップへの参加（復興計画的視点からのコミュニティレジリエンスの形式知の検討）

概要：玄界島において上記の調査を実施し、調査結果から玄界島の復興過程を分析し、コミュニティレジリエンスの暗黙知が復興過程にどのように影響したかを探索する。

地島において上記の調査を実施し、調査結果から地島の被害想定と復興計画の評価を行うとともに、ワークショップにおいてコミュニティレジリエンスの形式知を活かした復興計画を探索する。

4. 研究開発内容別サブグループ

1) 玄界島の復興過程分析サブグループ（後藤隆太郎）

福岡教育大学大学院福祉社会教育講座：井上豊久

日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科：上村朋子

実施項目：玄界島地区踏査、島民インタビュー、復興計画の文献調査および質的探索的分析

概要：玄界島において上記の調査を実施し、調査結果から玄界島の復興過程を分析し、コミュニティレジリエンスの暗黙知が復興過程にどのように影響したかを探索する。

2) 玄界島の歴史・文化・社会的特性分析サブグループ（井上豊久）

佐賀大学大学院工学研究科：後藤隆太郎

日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科：岡村純

実施項目：玄界島地区踏査、島民インタビュー、既存資料の文献調査および質的探索的分析、

概要：玄界島において上記の調査を実施し、調査結果から玄界島の歴史・文化・社会的特性を分析し、これらの特性がコミュニティレジリエンスの形式知とどのように関連しているかを探索する。

3) 玄界島のコミュニティレジリエンスの暗黙知抽出サブグループ（小川里美）

福岡教育大学大学院福祉社会教育講座：井上豊久

佐賀大学大学院工学研究科：後藤隆太郎

国際医療福祉大学成田看護学部：森山ますみ

実施項目：玄界島地区踏査、島民インタビュー、復興後の生活影響調査および質的探索的分析

概要：玄界島において上記の調査を実施し、調査結果の質的探索的分析と既存資料の探索分析に基づき、玄界島のコミュニティレジリエンスの暗黙知を抽出する。

4) 地島のコミュニティレジリエンスの形式知創出サブグループ（森山ますみ）

福岡教育大学大学院福祉社会教育講座：井上豊久

佐賀大学大学院工学研究科：後藤隆太郎

日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科：岡村純、小川里美、上村朋子

実施項目：地島における地区踏査、既存資料調査、復興計画の文献調査、健康調査、ベースラインデータ・事後調査（島民の意識・態度・行動）、ワークショップの実施・運営（玄界島のコミュニティレジリエンスの形式知の検討、地島の歴史・文化・社会的視点からのコミュニティレジリエンスの形式知の検討、地島の復興計画的視点からのコミュニティレジリエンスの形式知の検討）

概要：地島において上記の調査を実施するとともに、アクションリサーチとしてワークショップを実施し、玄界島のコミュニティレジリエンスの形式知を島民と検討することによって地島のコミュニティレジリエンスの形式知を創出する。

6) 島しょのコミュニティレジリエンスの形式知創出サブグループ（岡村純）

福岡教育大学大学院福祉社会教育講座：井上豊久

佐賀大学大学院工学研究科：後藤隆太郎

日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科：小川里美、上村朋子

国際医療福祉大学成田看護学部：森山ますみ

実施項目：全体会議、現地報告会

概要：地島それぞれの形式知を比較検討することによって、島しょにおけるコミュニティレジリエンスの形式知の一般化を試みる。

6. 研究開発実施者

研究グループ名：日本赤十字九州国際看護大学

| | 氏名 | フリガナ | 所属 | 役職 (身分) | 担当する研究開発実施項目 |
|---|--------|-------------|----------------------------|------------|--|
| ○ | 岡村 純 | オカムラ ジュン | 日本赤十字九州国際看護大学 看護学部 看護学科 | 教授 | 統括・コミュニティレジリエンスの知の創出 |
| | 小川 里美 | オガワ サトミ | 日本赤十字九州国際看護大学 看護学部 看護学科 | 准教授 | 玄界島、地島における地区踏査、インタビュー、データ分析、コミュニティレジリエンスの知の探索と創出 |
| | 上村 朋子 | ウエムラ トモコ | 日本赤十字九州国際看護大学 看護学部 看護学科 | 准教授 | 玄界島、地島における地区踏査、インタビュー、データ分析、コミュニティレジリエンスの知の探索と創出 |
| | 森山 ますみ | モリヤマ マスミ | 国際医療福祉大学成田看護学部 | 准教授 | 玄界島、地島における地区踏査、インタビュー、データ分析、コミュニティレジリエンスの知の探索と創出 |

研究グループ名：福岡教育大学

| | 氏名 | フリガナ | 所属 | 役職 (身分) | 担当する研究開発実施項目 |
|---|-------|--------------|-------------------------------|------------|--|
| ○ | 井上 豊久 | イノウエ トヨヒサ | 福岡教育大学 大学院 福祉社会教育 講座 | 教授 | 玄界島、地島における地区踏査、インタビュー、データ分析、島しょの歴史・文化・社会的特性の分析 |

研究グループ名：佐賀大学

| | 氏名 | フリガ ナ | 所属 | 役職 (身分) | 担当する研究開発実施項目 |
|---|--------|-------------------|----------------------------|------------|---------------------------------------|
| ○ | 後藤 隆太郎 | ゴトウ リュウ タロウ | 佐賀大学大学院 工学研究科 都市工学講座 | 准教授 | 玄界島復興計画の評価・分 析、地島災害被害想定・復興 計画検討 |

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

7 - 1. ワークショップ等

なし

7 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

- (1) 書籍、DVD
- (2) ウェブサイト構築
- (3) 学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

7 - 3. 論文発表

- (1) 査読付き（_____件）
 - 国内誌（_____件）
 - 国際誌（_____件）

- (2) 査読なし（_____件）

7 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

- (1) 招待講演（国内会議_____件、国際会議_____件）
- (2) 口頭発表（国内会議_____件、国際会議_____件）
- (3) ポスター発表（国内会議_____件、国際会議_____件）

7 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等

- (1) 新聞報道・投稿（_____件）
- (2) 受賞（_____件）
- (3) その他（_____件）

7 - 6. 特許出願

- (1) 国内出願（_____件）